

絵本は心のごちそう・プロジェクト

「絵本は心のごちそう」。宝物のように絵本を抱きかかえる子供、懐かしさに目を輝かせて読む大人の姿。これらを秋学期に開催したイベントで見て、絵本の素晴らしさを再確認しました。

私は絵本の魅力に注目した「楽しさの提供」をテーマにイベントを企画するプロジェクトのSAを担当しました。履修生ではなくSAとして自分に何が出来るのか、特に苦心したのは距離感です。基本的には客観的であることを心がけながら、「楽しさ」という目に見えないものに悩む履修生と一緒に自分も悩みました。「今、どの立ち位置であるべきか」を常に意識していました。

プロジェクト科目は、自分に何が出来るかを見つめ直させてくれると思います。

留学生と創る！！「祇園祭を支える町衆文化読本」制作プロジェクト（伝統文化継承と地域文化創成の観点から）

喜ぶことに、私はいつも周りの人に恵まれています。履修生としてこのプロジェクト科目を取った年もそうだったのですが、SAとして関与したこの1年では、なおさらそれを感じることができました。なぜなら、履修生は皆、努力家だからです。そのおかげで、SAの仕事がとても楽しいものだと思えました。

この1年の活動を通じて、履修生一人一人が祇園祭に詳しくなったのは、手を取るように分かります。しかし、プロジェクト科目の良さは、決して知識を得ることだけではありません。履修生全員で決めた目標をいかにして実現させていくのか、というところにプロジェクト科目の学びがあると私は思います。そういう意味では、今年のメンバーはそれを見事にやり遂げてきました。この1年間が、履修生全員にとって、かけがえのない思い出になることを強く望みます。

京都の伝統織物で感動を！ 魅力発見プロジェクト

私は昨年、このプロジェクトに履修生として参加していました。とても充実した1年でしたが、決して1年全体のプロジェクトが大成功・大満足！といえるものではありませんでした。そして、SAのお話をいただいた時に私の経験が役に立てばと思い、SAをやることに決めました。今年のメンバーはとてもまじめで、私の話も真剣に聞いてくれました。今年もイベントを開催しましたが、昨年とはまた違う、織物に対する思いがよく出たイベントになったと思います。メンバーが織物に対する思いをまとめた動画や、伝統文化の重厚感を感じられるパンフレットなど、みんならしさがでたプロジェクトだったのではないのでしょうか。SAとしてこのプロジェクトに関わることができて嬉しかったです。

プロバスケで地域を盛り上げよう！ ～社会的課題をスポーツで解決

昨年に続き2度目の参加でした。今年は履修生5名と少人数でのプロジェクトでしたが、一人ひとりの役割が大きく、非常に充実したプロジェクトになったように思います。

プロジェクトを進めるなかで行政機関や協力企業など大学外部とのやりとりが多く、スケジュール調整の難しさや、文書でこちら側の意図を分かりやすく伝える必要性など、プロジェクト科目ならではの学びがたくさんありました。そして履修生が試行錯誤を重ねていく姿から、私自身も多くの学びを得ることができました。特に今年は路線変更が必要な場面があり、「実現可能な範囲内での最適な選択をする」ことの重要性を感じました。

今年のテーマ「地域の社会的課題をスポーツで解決」を土台に、京都ならではの課題にアプローチすることができたと思います。履修生の皆さん、本当にお疲れ様でした。貴重な時間を一緒に過ごせたことを嬉しく思います。ありがとうございました。

西陣のモノづくり産業の見える化と 交流促進を通じた地域活性

今年度の履修生の活動は「西陣にすでにコミュニティが確立されつつある中で、その輪を広げながら結束を固める」という、難しい挑戦だったと思います。

春学期は西陣地域やモノづくりに触れ、自分たちが地域活性化のためにできることは何か考えました。そこで開催した企画が思うようにいかなかった経験から、秋学期は若手クリエイターを紹介するパンフレットの作成を行いました。少ない人数で、それぞれが責任感を持って活動し、挑戦し続けました。それによって西陣の未来をまたひとつ紡いでくれたのではないかと思います。本当にお疲れ様でした！

学生×NGOで取り組む！ 地域～世界の課題に発言・提案しよう！

本科目では、履修生が自ら「エシカル消費を広げる」というテーマを設定し、その実現に向けたアクションとして「Ethical×Clothes」という服の交換イベントを開催しました。

TAの視点では、本科目の最大の成果は、テーマを具体的な活動内容に落とし込む過程であったと考えています。消費という言葉を単なる「購買」として捉えず、消費に関する「ライフスタイル」と幅広く捉え直すことに成功したことが、「着なくなった服を他者と交換する」という一般の人にとっても身近なイベントの実現に至ったのではないのでしょうか。

履修生の皆さんに心から称賛を送りたいと思います。一年間お疲れ様です。この経験を胸に、皆さんが新たな場で活躍することを期待しています。

あなたがプロデュース! KYOTO和婚の魅力を世界に発信プロジェクト

私は履修生として1年、SAとして1年それぞれプロジェクト科目に関わらせていただきました。

私が常に心がけていたのは履修生とのコミュニケーションです。相談された時にのみ応じる窓口的な存在ではなく、それ以外の場面でも積極的に会話をして信頼関係を築く工夫をしていました。

履修生の立場を知った上で、プロジェクトに深入りせずに客観的に見てサポートするSAは難しく感じるが多かったです。しかしその分発見も多くあり、充実した1年でした。「履修生をして終わり」ではなくその後も自分の経験を活かせるチャンスがあるのがこの科目の良いところだと思います。

最後になりますが履修生の皆さん、本当にお疲れ様でした。また、いつもの確実なアドバイスをしてくださった先生方に厚く御礼申し上げます。

クラシック音楽のコンサートを創ろう! ～アートマネジメントが抱える課題に挑戦～

今年度、当プロジェクト科目のSAを務めさせていただきました、商学部3年の山口弘人です。このプロジェクト科目の昨年度の履修生でもあります。今年度は、昨年度と比べて大幅に人数が少ない中でスタートしました。ただ、このことは決してマイナスではなく、今年度に関してはプラスに働いたと考えています。当然ながら前期はバタバタしましたが、前期の後半、また後期には一人一人が責任感を持って動いていたのはすごく良かったです。また、何らかの音楽に精通しているメンバーが多かったため、各ジャンルからの視点もすごく面白かったです。そして最大の効果としては全員の方向性が一致していたこと。昨年度は終盤でズレが生じた部分が、今年度は違和感を置き去りにすることなく、少人数ですが全員の意向やコンサートの目的が一致し、実行できたと思います。

メディアを活用した歴史まちづくり観光 (宇治市をフィールドに)

一年間、本科目のSAを務めさせていただきました。私自身、この一年間で初めて体験したことが沢山ありました。まず、プロジェクト科目に携わること自体が初めてでした。右も左も分からぬまま、履修生の皆さんと楽しい授業づくりを模索し続けた一年でした。また、プロジェクトとして春・秋学期に制作したラジオ番組と映像作品ですが、普段視聴することはあっても、制作することは初めてでした。メディアを活用して宇治市の魅力を内外に発信するという本科目の目的を達成する上で、まずは私たち自身がその魅力を十分に理解できたと思います。

最後になりましたが、先生方、履修生の皆さん、そしてご協力いただいた皆様に深く感謝いたします。ありがとうございました。

京都から『美味しい食育』発信プロジェクト！！ (身体に優しい食べ方開発プログラム)

今年度、新たに開講されたこのプロジェクトは、何もかもが「開拓」であったように思います。そもそもプロジェクト科目は、決まったゴールは定まっておらずそれぞれのテーマのもとに学生主体でつくりあげていくものだと思います。そしてこの「京都から『美味しい食育』発信プロジェクト！！」は今年度新たに開講されたクラスであり、具体的にどのような活動を行うのか、すべてメンバーの思いやアイデア次第で決めていかななくてはならないところからスタートしました。

そのなかで、TAという立場からの関わりもまた「開拓」の連続でした。プロジェクト科目の受講経験はなく、テーマである健康や栄養などの専門の分野に詳しいわけでもなく、業務内容が比較的明確な科目のTAを担当することが多かった私が、私なりにこのクラスのTAとしての役割を見出すことができたきっかけは、それぞれに思いを持って集まった学生達が、本当にこの科目の中で主体的に活動し、自分達の考えを表現し、彼ら彼女らの満足や成長や学びに繋がっているのだろうか、という疑問を持った場面でした。プロジェクトを成功させたいという思いが強くなればなるほど、よい結果になるよう努めるあまり、学生達自身の関心ややりたいことや考えが隠れていってしまうようにも見えました。そう気付いて以来、学生達のディスカッションに少しずつ介入し、「学生自身がどう考えるか、何をどうしたいのか」「それぞれが学びを得たり、成長したり、満足できているか」を、学生のみなさん自身に気付いてもらえるように声かけをしていきました。

ひとつのテーマのもとに、社会全体の現状を知り、それらについてディスカッションし、問題意識を向上させ、解決策を考える。学生のみなさんは、企画を実行に移すまでのこうしたプロセスに本当に多くの時間やエネルギーを費やしたと思います。成果としてのポスターや冊子の完成度にそれらが映し出されることは言うまでもありませんが、そこまでプロセスの中でこそみなさんそれぞれの魅力がいかにされ、学びも多かったと思います。TAとして何か貢献できたかという自信がありませんが、私自身がたくさんの気付きや学びを得られました。よい経験をさせていただけたことに感謝しています。

地域課題解決に資する コミュニティカフェのデザイン

都市の発展に伴い、ご近所付き合いをはじめとするコミュニティが希薄化している日本。無縁社会と呼ばれ、孤独死や災害時の避難の困難といった問題を抱えています。本プロジェクトでは、「コミュニティカフェ」というツールを使って、地域間の問題発見と問題解決に資するコミュニティの形成を目的にしています。

私がSAとして関わっていく中で一番大切にすることは、皆さんの「自主性」を育むサポートをすることでした。プロジェクトにどれだけ入り込むべきかというの、何度も悩みました。

ゼロからプロジェクトを作っていく中で、チームは何度も壁にぶつかりましたが、その度に全員で話し合い、協力しながら乗り越えていく姿を見て、皆さんがとても頼もしく思えました。この経験と、この科目の中で得たコミュニティは一生の財産になると思います。

最後に、一年間本当にお疲れさまでした。